

## 令和元年度 第1回 南海医療センター地域協議会 議事概要

【日時】 令和元年9月26日（木） 14時～15時

【場所】 南海医療センター 管理棟3階 大会議室

- 【議題】 1. 南海医療センターの診療体制について  
2. 新病院建設進捗状況について  
3. 南海医療センターへの要望について

### 【出席者】

(外部委員)

行政代表者	大分県南部保健所長	池邊 淑子 様
行政代表者	佐伯市福祉保健部健康増進課長	狩生 聖嗣 様
医師会代表者	一般社団法人佐伯市医師会長	島村 康一郎 様
病院利用者代表		山中 琢磨 様
		計4名

(南海医療センター)

院長	森本 章生	
看護部長	告吉 ゆかり	
事務長	神崎 啓慈	
医局長	平田 裕二	
地域連携室長	山田 淳子	
主任医療社会事業専門員	古木 和美	計6名

## 【概要】 議題1「南海医療センターの診療体制」について

(南海医療センターが今後、力を入れていく診療科について)

いずれの診療科においても増員することで緊急症例に対応することが可能になる。特に内分泌代謝内科に関しては佐伯県内に常勤医師が不在であることから、引き続き大学医局へ必要性を働きかけていく。

(脳神経外科の診療体制について)

佐伯市に脳神経外科医は数名いるが夜間救急体制は十分に整っていない。

当院には常勤麻酔科医もいることから、緊急症例に対応できる準備は整っているが、大学医局にも派遣できる医師が少なく、なかなか確約は頂けない。

引き続き大学医局へ必要性を働きかけていく。

## 【概要】 議題2「新病院建設進捗状況」について

(災害拠点病院としての機能について)

順調に建設は進んでおり、令和元年11月に完成予定。

12月末に引越しを終え、令和2年1月から診療を開始する予定だ。

有事(停電時)の際には優先的な電力供給を受ける体制とともに、屋上に設置された発電機により機能を制限しながら3日間の稼働が可能である。

ヘリポートも整備されており、大分大学高度救命救急センターとの連携により患者搬送に大きく寄与することができる体制が整う。

## 【概要】 議題3「南海医療センターへの要望」について

(地域医療構想における高度急性期病床について)

県南地域で高度急性期医療を担っていくのは南海医療センターしかなく、現実的には南海医療センターの現状の診療体制をみれば高度急性期医療の機能を十分に発揮していることは明らかだ。

現状の報告方法だと病棟単位である為、何床という単位ではできないが、レセプトで診療状況を分析すれば、南部医療圏における高度急性期医療は、南海医療センターがどのくらい担っているのかということをはっきりとできる。このことは報告できなくとも、構想の念頭に置くことはできる。現状把握についてはご相談頂ければお手伝いできる。

南海医療センターとして県南の高度急性期医療にどのように向き合っていくのか、熟考頂くことを要望する。

-以上-